

ワクワク感！で満ち溢れる農業人生へ向けて

山口県JA山口宇部青壮年部 今橋 誠

「このワクワク感をみんなで共有したい」

これがわたしたちJA山口宇部青壮年部の目標です。

実は、私は農業がブチ嫌いでした。

誰がこんな仕事、一生するかい！

そう決めて子供の頃を過ごしていました。

ですが、今は農業が楽しくて、楽しくて「ワクワク」が止まらないんです！

そう思えるようになったキッカケは、やはり青壮年部との出会いでした。

私が所属するJA山口宇部は、平成7年に当時の宇部市、小野田市、山陽町、楠町、阿知須町の2市3町の6JAが合併し、誕生しました。そして青壮年部は平成23年に設立、現在の盟友数は67名、3支部から成り立っています。親睦スポーツ大会やまつりでの出店、そして農業技術の向上のための勉強会など、様々な活動を通じて、盟友同志「熱く語り合い、時には励まし、笑い合い」をモットーにお互いの絆を深め合っています。

そんな青壮年部ですが、設立した1~2年はいまいちパツとしない冴えない部でした。「まずは、仲間を増やさんにゃいけんのお」と言うのを口実に「飲み会」を頻繁に開催したのですが、「ワクワク感やドキドキ感」というものには程遠く、毎度開かれる飲み会や、マンネリ化する活動に対して飽き飽きしたのか、少しずつ部員の数も減っていきました。「このままでエエんか」「これがワシらやりたかった活動なんか」と、自問自答する毎日。皆も何か物足りない気持ちでいっぱいのようなようでした。

そんな時です。毎度毎度の飲み会を居酒屋で行っているとき、私が「あゝ、もうちょっと稼いで、キレイな姉ちゃんがようけえおるスナックに行ってみたいのお〜」と冗談交じりに言ったところ、誰かが、「ほいじゃあ、青壮年部で一緒に野菜を生産してみるちゅうのはどうかいの？青壮年部として作業とかも協力し合って共同出荷すれば稼げるじゃないんか？」

その言葉は衝撃でした。農業は個人事業主であると思っていた自分。

そんな事がホンマにできるんか・・・それは杞憂に終わりました。まず、最初に「夏はナスビ、そして冬はブロッコリーを作ろう」と仲間同士で話し合い、生産することにし、ナスビは、東京オリンピックを誘致するときのプレゼンテーションで一躍流行語になった「おもてなし」をヒントとし

て「お・も・て・な・す」…「おもてなす」と命名し、青壮年部ナス部会、青壮年部ブロッコリー部会を立ち上げました。ちなみに私はブロッコリー部会の部会長に任命されました。県外、県内で市場調査を行い、販路を確保するため、ありとあらゆる人間関係をフル活用しました。また人手が足りないときはお互いが声を掛け合い、協力し合いました。「とにかくみんなで儲けて、みんなで酒を飲む」これを合言葉に必死で頑張りました。

結果1年目は青壮年部全体で「なすび」は4トン、ブロッコリーは10トン、生産することができました。天候や気温の読みが外れ、植え付け時期を間違えたため、1年目は思うような成果は残すことはできませんでしたが、農閑期にも農業ができるようになったのは私の最大の幸福でした。1年目の失敗を糧に、これからもっと力を注いでもっともっと生産力を高めていこうと思っています。

今年はナス部会・ブロッコリー部会で2000万円の売り上げを目標に掲げて頑張っていこうと思っています。必ず達成します！

それでは、次に新規就農者への独自研修についてお話しさせていただきます。平成24年10月に前田耕造さんという方が青壮年部に入りました。この前田さん、以前は会社勤めでしたので、農産物を育てたことはほとんどなく、農業についての知識はゼロ。しかも45歳。正直誰もが「イヤイヤ、この歳で農業はないじゃろう」と思っていました。しかし前田さんの

キラキラと澄んだ瞳と「本格的に農業を始めたいんや」という意気込みに圧倒され、みんなで協力することにしました。ただ、一体どうすれば「前田さんが農業でメシを食っていくことができるのか？」をテーマに、盟友同士悩みに悩んで出した答えが、「同じ世代の目線でサポートすれば、自立に結びつくのではないか」というものでした。当時の流行語「いつやるの？今でしょ」ではないですが、我々は即実行に移しました。盟友が指導役となり、野菜の栽培を指導する独自の研修を実施することにし、前田さんが栽培する野菜はナスを選抜。作業を一通り経験させ、途中でくじけないよう、負担の大きな定植や収穫作業の手伝いを行うことにしました。栽培する野菜になぜナスを選んだのか、それは亡くなった前田さんの父親でもあり、またJA山口宇部の前組合長でもある前田文樹さんが丹精込めて長年栽培していたのがナスだったからです。前からナスを育てていた私やナス栽培に興味を持っていた青壮年部委員長の松村さんも加わり、25年3月から準備を行い、5月の定植に向けて営農計画を立て、JAの営農指導員の協力も取り付けスタート。農業1年目の前田さんはナス350本を栽培しました。11月まで収穫する目標を立て、剪定や収穫などは手作業が中心で労力がかかるため、農繁期には部員が協力して就農を諦めないようサポートしました。何とか前田さんを1人前にしたい、皆必死でした。結果、前田さんは200万円の利益を上げ、2年目となる今年は倍以上と

なる 850 本のナスを栽培し昨年の倍以上の数字を残しています。何より嬉しかったのは、数字ではなく前田さんの農業に取り組む姿勢が始めた当初と明らかに変わったことでした。

これを機に我々は後継者育成を重点活動として位置づけ、今年度も研修を行っています。また研修だけではなく、土地を探している盟友には市・農業委員会と連携し、放棄地になっている所有者のところへ訪問し、農地を借りてブロッコリーや枝豆を育てています。ここでも青壮年部が一体となって「農業でメシが食えるように」とバックアップしています。「同じ世代だからこそ、就農希望者に寄り添って指導やアドバイスができる。」野菜の産地化も進め、いずれは青壮年部ブランドとして打ち出していきたいと考えています。

次は、青壮年部と女性部とのかあちゃんたちとの活動について紹介させていただきます。

毎年本店で行われている農業まつりに青壮年部として参加しています。ですが初めに自分たちの生産した農産物を使って出店しようと計画したは良いのですが、出店という事に関しては全くのド素人・・・右も左もわかりませんでした。結果、出店初年度は大惨敗・・・

そこで翌年は女性部の新田部長や女性部のかあちゃん達に相談しました。すると「ならサツマイモがええ、焼き芋やサツマイモスティックにし

たら良く売れるよ」

さすが長年対面販売を経験している人たちです。さっそく委員会で盟友の皆に相談してその年から、焼き芋やサツマイモスティックを販売することにしました。

その中で「農家なんやからサツマイモも皆で一緒に育てて、それを売ることにしようで」と意見が出ました。ですが、当時のJA山口宇部青壮年部は活動が活発ではなく、人手が足りない状況。皆で悩んでいました。するとそこでも女性部の母ちゃん達から「私らも手伝うから一緒にやろういね」と、まさに天の声。

女性部の手伝いにより、毎年高品質なサツマイモを農業まつりに出しています。

また、焼き芋やサツマイモスティックの作り方を知らない自分たちにわざわざ時間を作り、作りかたや味付けの仕方を教えてくれました。

当然助けてもらってばかりでは申し訳がたちません。女性部からの依頼があれば盟友一同が一致団結し、駆けつけ一緒に活動します。

その一つが通所福祉介護施設の圃場づくりです。

JA山口宇部には「デイサービス樹」という介護施設があります。利用者に野菜作りを楽しんでもらいたいという女性部の思いから、敷地内に小さな圃場を作る事になりました。

新田部長から「私らだけやと難しい事もあるから手伝ってもらえんやろうか？」と申し出を受けた我々は二つ返事で引き受けました。

力仕事は男の仕事！いつもお世話になっている女性部の人たちに恩返ししようと盟友が力を合わせてがんばりました。

我々だけでなく組合長やJA職員の方にも手伝って頂き素晴らしい圃場が出来上がりました。利用者の方から「ありがとう」の言葉は今後の活動の糧となっています。

この他にも一緒にカレー作ったり、本部だけではなく各支部単位で一緒に収穫作業や対面販売など行っています。

今後も積極的に協力し、地域の活性化、組織の活性化に向けて頑張っていきたいと思っています。お互いがお互いを支え合うまさに協同の力です。

最後は、食農教育活動についてお話をさせていただきます。

発足当初は飲みや、自分たちの事をするので精いっぱいだった私たち。ですが、今後の日本の食に不安を持っていました。

子供達に地元の新鮮な農産物を知ってもらいたい、味わってもらいたい。

そこで我々はJAや女性部と協力し食農食育活動を始めました。

JA山口宇部の食農教育活動に「ちゃぐりん学級」という活動があります。

管内の圃場を利用し農業を体験したり、地元野菜の収穫や調理をしたり、地元の名人に工作を学んだりする活動です。そこで盟友達の圃場を使ってもらうよう要請。多くの活動を行いました。

盟友の一人はミニトマトの圃場を活動の場に提供、もぎたてのトマトを口に運んだ子供達からは「あまーい」「すごく美味しい」の声。また、他の盟友の一人はサツマイモの植付から収穫までを担当、まさにイモの先生です。

消費者の声を直接聴ける。そして子供たちの「美味しい」「楽しい」の声は盟友達のやる気の原動力となっていました。

最初は嫌々やっていた盟友もいたと思います。ですがこども達との触れ合いの中で、盟友一人一人の気持ちに変化が生まれていきました。そうすると「次は俺の圃場でトウモロコシをやろう」「子供たちが好きなイチゴを皆で植えて一緒に収穫するのはどうだろう」青壮年部として多くのアイデア・企画の提案が委員会の中で出てくるようになりました。そこで、山陽小野田市商工会議所とのコラボを行いました。

「ワークドリームツアー」と名付けられたその企画は市内で栽培されている農作物を知ってもらい、トラクター試乗・種まき・野菜の収穫から出荷までの流れを「一日農家」として体験、地元の食材などを使って親子でお弁当作りや野菜のセリの模擬体験等を行いました。子供たちが将来の仕

事を考える中で農業も選択肢の一つになったのではないかと考えています。

多くの活動を実施していく中で、盟友が「食農教育」を真剣に考え、役割や、自分達のやりたいことの他に、農業者として求められている事を、しっかりと受け止めて活動を展開していく事ができました。

以上がJA山口青壮年部の活動実績です。

今後もJA山口宇部青壮年部では多くの仲間と手を取り合い、協同の力で農業に励んでいきます。

現在の我が青壮年部は、まだまだ小さな組織ですが、これからも、部員数を拡大できるように、楽しく充実した活動を企画し、実践してまいりたいと考えています。

そして素晴らしい仲間とともに、これからの農業の未来と一緒に歩んでいきたいと思っています。

いま私はワクワク感でいっぱいです。

そのワクワク感をみんなで共有していきたいと思っています。

ご清聴、ありがとうございました。